

◇業務実施方針/業務への取り組み

ソフトとハードの相互理解を深めとみやの未来をつくる



・木の町コミュニティ館 きとねでのWS



・JVで協働設計した「木造復興型住宅モデル群希望ヶ丘project」

本計画は、NASCAとはりゅうウッドスタジオがJVを組んで提案します。私たちは東日本大震災の復興住宅設計や移設可能な木造構法開発、NPO法人の運営等の豊富な協働経験を活かし、富谷市に初めてつくる「市民図書館」と「児童屋内遊戯施設」と「スイーツステーション」という機能が複合した施設のあり方を提案します。今までに前例のない新たな施設づくりにはソフトとハードの両輪が相互理解を深めながら進めることが重要だと考えており、設計者に選定された後には速やかに多くの関係者へのヒヤリングや意見交換(ワークショップ)を丁寧におこない、相互理解を深めながら設計を進めます。様々な立場の市民が参加することが「とみやの未来」をつくることに繋がり、この建築が永く市民に愛されることを目指します。

◇業務目的

複合機能のしなやかな融合が「とみやびと」と「まち」をつくる

2016年に富谷町が富谷市になり、将来ビジョンの「住みたくなるまち日本一」「とみやシティブランド」で自慢したくなるまちを創る」は富谷町地方創生総合戦略から富谷市総合計画に引き継がれました。市はこれらの実現に向けて、重点的に「市民図書館」「スイーツステーション」「児童屋内遊戯施設」の整備を各々で計画推進してきました。それらは、教育委員会生涯学習課の図書館開館準備室、経済産業部産業観光課、保健福祉部子育て支援課といった各担当課を中心に、市民を交えた様々なワークショップを行い、方針や計画を策定してきました。今回、これらの機能を複合化することで相互触発や交流を促し、持続可能な運営が期待されています。私たちは今までに複数の担当課を超えた複合施設の設計経験も有しており、市民と共にしなやかな融合を計っていきたくて考えています。子どもから大人や高齢者までの「とみやびと」がイキイキと暮らせる「まちづくり」が最終的な目的と考えます。



・現在の成田公民館



◇行政と市民と設計チームの協働イメージ

◇建築費及び整備費に係わるコスト管理への取り組み

優先順位とデザインを修練していくコスト管理

私たちJV内には積算の有資格者も参画し、東北圏内のネットワークも有効活用し時勢を見定めたコスト管理をいたします。同時に公共建築の積算を専門とする会社が協力し、設計の段階に応じて建設費用の骨格をチェックします。予算調整とは「減額」するのではなく優先順位をつけて本当に必要なものを確認しながらデザインを「修練」させていく手段と考えています。

◇設計過程における富谷市及び市民との意見交換や対話を行う実施体制やスケジュール

市民ワークショップに何を求めるか

ワークショップと言っても、建設の経緯や設計やデザインのコンセプトなどを広く知ってもらうための周知型や、市民・町民の意見徴収をする対話型など様々なやり方があります。私たちはその都度発注者や市民が求めている目的、参加対象者、主体、頻度、人数規模、予算規模などについて担当課と相談しながら進めていきます。参加対象は広く市民に参加を求める場合と選ばれた検討委員で開催する場合がありますが、重要なのはワークショップに何を求めるかを見定めることが大切です。



・小布施町立図書館 まちとしよアランWS 中学生が本の引越



・高崎市立桜山小学校WS 在校生と実物大の教室をつくる



・アンパンマンミュージアム 1/7の模型を使って町民とWS

◇業務実施体制

【管理技術者】



八木 佐千子
ナスカ代表取締役
一級建築士

1994年にNASCAを共同で立ち上げ、人々が出会い、交流が生まれ、時代をつなぐ空間を創ることを旨とし、全国で図書館や学校、庁舎、劇場など様々な公共建築の設計監理を手掛けてきました。東北圏内での設計実績や、日本図書館協会建築賞審査委員(2019-) 森が学校計画産学協同研究会(C.W.ニコル氏が創設) 幹事の経験を活かして取り組みたいと考えています。なお、ワークショップ実績、ZEB対応設計も有しています。

- ワークショップ実績
 - ・香北町立アンパンマンミュージアム(高知県1996年)
 - ・小布施町立図書館(長野県2009年)
 - ・喜多方新市庁舎(福島県2014年)
 - ・阿久根市民交流センター(鹿児島県2018年)
- ZEB/ZEH設計実績
 - ・T博士の家(千葉県2009年)
 - ・ZEH標準化設計監理(東京2014年)
 - ・氷見市新文化交流施設(富山県2022年)
 - ・平川市本庁舎(青森県2022年)



・銀南町道の駅保田小学校(千葉県)



・小布施町立図書館まちとしよアラン(長野県)



・同志社香里中学校・高等学校メディアセンター(大阪府)

【構造担当主任】



江尻 憲康
江尻構造設計事務所
代表取締役
構造設計一級建築士

多様化する需要に対して高度な専門的技術を活かし提案する能力を有し、JVとの協働実績も豊富であり、密接な連携が可能です。

【設備担当主任】



柿沼 整三
ZO設計室 代表取締役
設備設計一級建築士
建築設備士
技術士

省資源・省エネルギーを心がけながら、建築意向を設備設計上から援助し、快適で気持ちの良い空間づくりを目指します。

【環境アドバイザー】



田辺 新一
早稲田大学教授
日本建築学会会長

シックハウス・環境エネルギーの実践と研究者として第一人者であり、ゼロカーボン戦略の推進とZEB事業の達成をサポートします。

【子ども環境デザイン】



仲 綾子
東洋大学教授
一級建築士
子ども環境学会理事

「子どもにやさしいまちづくり」を推進している富谷市にふさわしい、子ども大人も居心地の良い遊び・子育て環境づくりをお手伝いします。

【その他専門家】

- 積算担当
- 木質アドバイザー
- 耐火木造アドバイザー
- 複合施設管理・運営策定支援

◇完成までの流れと市民との協働イメージ



「とみや型ワークショップ」を考える

富谷市は図書館基本構想以来、多くの市民たちとワークショップを通じて図書館について検討してきた実績があります。他の施設についても今まで積み上げてきた議論がうまく融合し、開館後の運営にまでつながるような「とみや型ワークショップ」を考えていきたいと思ひます。市民にとっては公共施設を我が事のように考えることが自分達の未来の暮らしにつながります。富谷市にとってはワークショップを通じ未来を担う「とみやびと」を発見し、育てることにつながります。設計者にとっては設計に反映するだけでなく、市民の方々と輪を広げ地域の流儀を知ることにつながります。参加する皆がワクワクしwinwinになれることを目指します。

意見交換や対話を行うチーム体制

行政(複数の担当課)・市民(複数の関係団体)・運営者などの多くの関係者の条件整理を行う専門家の参画が必要です。行政のアドバイザー配置と同じく、私たちJV内にも埼玉県川口市メディアセブンの運営や、群馬県太田市図書館・美術館、新潟県小千谷市図書館でのワークショップなどの経験豊富なメンバーを配置し、風通しのよいチーム体制を築きます。新しい施設をつくるには「もの(建築やランドスケープ)」「こと(活動・アクティビティ)」「ひと(人材)」が三位一体となる必要があります。施設の利用や運営は設計段階から始まると思っています。未来につなぎ、使い倒せる空間を皆さんと一緒に考え、末永くお付き合いできるようなチームで臨みます。